

新規前立腺癌マーカー TT902 の抗体は免疫染色において臨床的意義のある癌を染め分けることができるか

車 英俊¹⁾、鷹橋浩幸²⁾、鎌田裕子¹⁾、柚須 恒¹⁾、潁川 晋¹⁾

1)東京慈恵会医科大学泌尿器科、2)東京慈恵会医科大学病理部

【目的】われわれが発見した新規前立腺癌マーカー TT902 の抗体が臨床的意義のある癌を見分けることができるか否かを検証する。

【方法】東京慈恵医大泌尿器科で手術的に摘除された 64 例の前立腺癌患者を対象にした。抗 TT902 抗体は、アミノ酸シーケンスの結果よりペプチドを合成し、これを抗原にしてウサギに免疫して作成した。この抗体を用いて免疫組織化学染色を行い、TT902 の染色強度を 4 段階でスコア化した。それぞれの標本で、癌部、HGPIN 部、過形成部、正常腺上皮部での染色強度をスコアで表し、各部位での発現強度の平均を算出した。

【結果】TT902 はほぼすべての前立腺癌部で発現がみられた。癌部と HGPIN 部の染色強度は、過形成部と正常腺上皮部と比較して有意に高値であった ($p < 0.001$)。また、癌部と HGPIN 部では癌部のほうが有意に高発現を示した ($p < 0.001$)。癌部での TT902 の発現は、Gleason score が高いものほど高値を示した ($p = 0.032$)。TT902 の遺伝子の発現は、前立腺癌細胞で発現が亢進していることを確認した。

【結語】TT902 は前立腺癌部で高発現を示し、特に Gleason score が高い検体ほど発現強度が高かった。TT902 は悪性度の高い前立腺癌により強く発現しているため、生検の段階で臨床的意義の高い癌を診断する手段としての応用が期待できる。